

2023 年第 6 週(2 月 6 日～2 月 12 日)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症発生動向調査

名古屋市感染症発生動向調査情報

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部)

2023 年(令和 5 年) 2 月 15 日作成

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

◆新型コロナウイルス感染症の発生状況

- 令和 5 年 2 月 14 日現在までに、名古屋市内では 669,453 人の新型コロナウイルス陽性者(再陽性患者件数を含む)が確認され、市内における新型コロナウイルスに関連した死亡者は 1,497 人となっています。2023 年第 6 週の一週間当たりの新規陽性者数は 3,415 人で前週の 5,012 人との比較では 0.68 倍(第 6 週/第 5 週)となりました。

◆新型コロナウイルス感染症に関する相談等

新型コロナウイルス感染症に関する相談や発生状況、ワクチン接種等の詳細な情報については下記のリンク等をご覧ください。

- 「コロナかも」発熱等で相談・受診したいときは(名古屋市)
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000133973.html>
発熱等の症状がある場合には、まずは、かかりつけ医等の地域の医療機関に電話等でご相談ください。相談した医療機関で診察・検査ができない場合は、診察・検査が可能な医療機関を紹介してもらってください。また、受診・相談センターでも紹介を行っています。
- 新型コロナに感染した場合(検査結果で陽性となった場合)(名古屋市)
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000149605.html>
感染症法施行規則の改正により、令和 4 年 9 月 26 日以降に医療機関を受診されて新型コロナウイルス感染症と診断された方は、医師から保健センターへの発生届の「届出対象」もしくは「届出対象外」に分かれました。
- 名古屋市陽性者登録センター(名古屋市)
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000155366.html>
症状が無症状もしくは軽症の方について迅速な陽性判定ができるよう「名古屋市陽性者登録センター」が設置されています。
- 新型コロナ患者(発生届の届出対象外の方もしくは陽性者登録センターで陽性者登録した方)へのご案内(名古屋市)
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000156550.html>
発生届の「届出対象外」および「名古屋市陽性者登録センターへ陽性者登録した」方向けのページです。

- 新型コロナウイルス感染症について（名古屋市）
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000124556.html>
- 市内の新型コロナウイルス発生状況（名古屋市）
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000157958.html>
- 新型コロナウイルスワクチンポータルサイト（名古屋市）
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000144989.html>
- 愛知県新型コロナウイルス感染症対策サイト（愛知県）
<https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/>
- 新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

〔愛知県医療ひっ迫防止緊急アピール〕

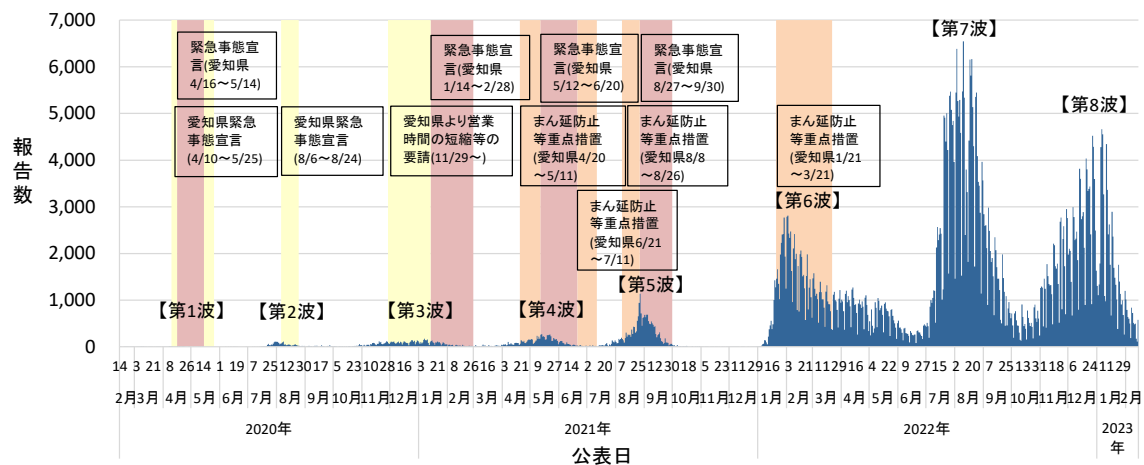
- 愛知県では第8波の感染拡大の抑制に向け「愛知県医療ひっ迫防止緊急アピール」が令和5年2月19日まで出されています。最新の情報については下記のリンクをご覧ください。
 - 県民・事業者の皆様へのメッセージ（愛知県）
<https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/covid19-aichi.html>

医療ひっ迫防止緊急アピール ①		医療ひっ迫防止緊急アピール ②	
県民 事業者	① 外出の注意点	混雑した場所や感染リスクが高い場所への外出など、感染拡大につながる行動は控えて普段と異なる症状がある場合は、外出を控えて	9 職場クラスターを防ぐ感染防止対策
	② 県をまたぐ移動の注意点	基本的な感染防止対策を徹底	10 「業務継続体制」の確保
	③ 高齢者等への感染拡大の防止	高齢者・基礎疾患のある方に配慮	⑪ イベントの開催制限等
	④ 基本的な感染防止対策の徹底	感染しない、感染させない	⑫ 行事等での対策
	⑤ 飲食店等に対する協力要請	手指の消毒設備の設置 施設の換気 等	⑬ 学校等での対応
	⑥ 業種別ガイドラインの遵守等	全ての施設で感染防止対策を自己点検	⑭ 保育所、認定こども園、幼稚園等での対応
	⑦ 生活・経済の安定確保に不可欠な業務の継続	十分な感染防止対策を講じつつ、業務を継続	⑮ 医療機関・高齢者施設等での対応
	⑧ テレワークの推進等	テレワークやローテーション勤務の推進	⑯ 医療機関等の負担軽減に向けた対応
		事業者	県
		○ワクチン接種の機会の提供	○あいスタ認証店の普及

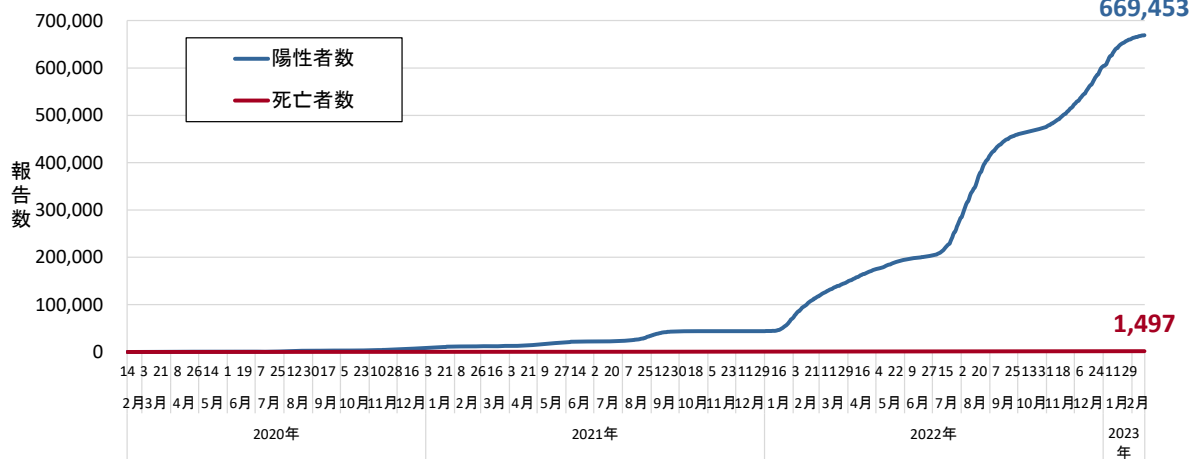
（出典：愛知県医療ひっ迫防止緊急アピールより）

〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数（令和5年2月14日現在）〕

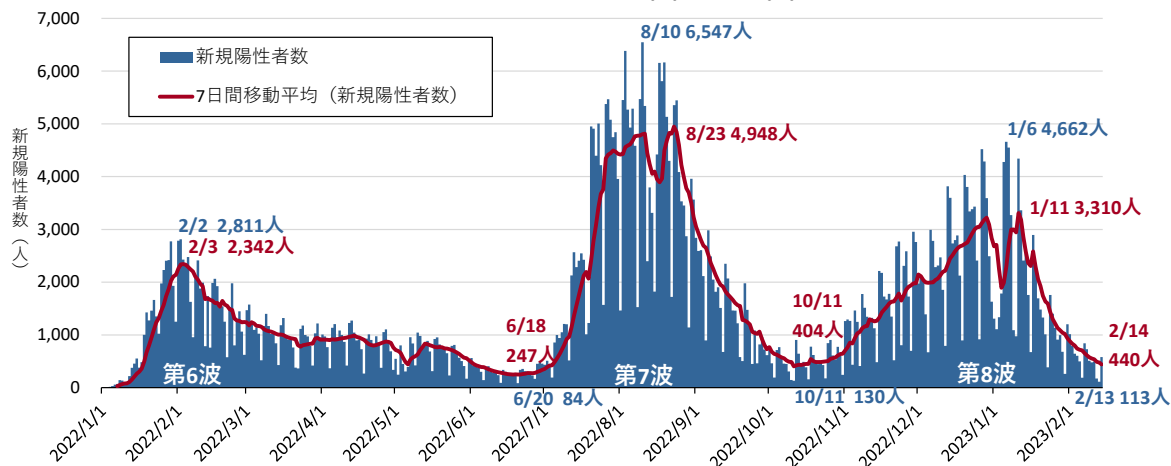
新型コロナウイルス陽性者数の推移（名古屋市：2020/2/14～2023/2/14 669,453人）



陽性者数、死亡者数の累計（名古屋市：2023年2月14日現在）

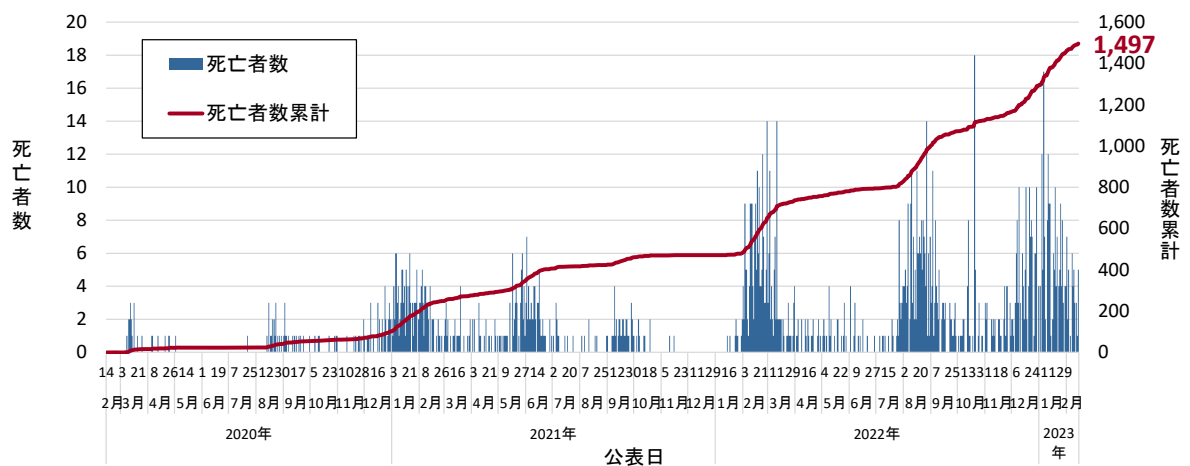


新規陽性者数（名古屋市：2022/1/1～2023/2/14）



〔名古屋市における新型コロナウイルスに関連した死亡者（令和５年２月１４日現在）〕
令和５年２月１４日現在、新型コロナウイルスに関連した死亡者は名古屋市内 1,497 人となっています。

新型コロナウイルス死亡者数(名古屋市 1,497人)



2020年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総計
死亡者数(人)	—	0	16	6	1	0	1	17	14	7	8	31	101	死亡者数
新規陽性者数(人)	—	24	98	149	6	12	770	1459	439	462	1899	3035	8353	1497
2021年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
死亡者数(人)	96	51	27	19	52	60	11	7	36	9	2	0	370	
新規陽性者数(人)	2911	716	629	2449	5533	1498	1253	10880	9150	410	60	63	35552	669453
2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
死亡者数(人)	10	170	86	20	23	14	32	173	72	52	41	130	823	669453
新規陽性者数(人)	27268	46642	30583	26088	20001	9299	79466	130697	45559	15914	46976	80377	558870	
2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
死亡者数(人)	161	42											203	669453
新規陽性者数(人)	59021	7657											66678	

◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- RS ウイルス感染症が中川区で 4.5 人となりました。

〔1 類～5 類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症 の分類	疾患	発生数	発生の概要
2023 年 第 6 週	2 類	結核	7	女性、22 歳、肺結核 女性、57 歳、肺結核 男性、24 歳、肺結核 男性、46 歳、肺結核 女性、92 歳、肺結核 女性、94 歳、無症状病原体保有者 女性、76 歳、無症状病原体保有者
2023 年 第 6 週	新型インフ ルエンザ等	新型コロナウイルス感染症	3415	下に別記載
2023 年 第 6 週	5 類	ウイルス性肝炎	1	女性、22 歳、EB ウイルス、感染経路：不明、 感染地域：不明
2023 年 第 6 週	5 類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	男性、62 歳
2023 年 第 6 週	5 類	後天性免疫不全症候群	2	男性、60 歳、AIDS、感染経路：不明、感染 地域：国内 男性、38 歳、無症状病原体保有者、感染経 路：同性間性的接触、感染地域：国内
2023 年 第 6 週	5 類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	男性、62 歳、菌検出検体：血液
2023 年 第 6 週	5 類	梅毒	8	男性、49 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、26 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、44 歳、早期顕症梅毒 1 期 女性、28 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、44 歳、早期顕症梅毒 2 期 女性、19 歳、無症状病原体保有者 女性、24 歳、無症状病原体保有者 男性、54 歳、無症状病原体保有者

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

〔新型コロナウイルス感染症〕（新型インフルエンザ等感染症）

	0 歳	1 ～ 4 歳	5 ～ 9 歳	10 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 79 歳	80 ～ 89 歳	90 歳 以 上	合計
市内医療機関 報告数※ ¹	46	210	260	331	419	506	496	342	148	94	160	146	73	3231
陽性者登録センタ ー登録数※ ²	2	4	8	15	31	46	42	29	7	0	0	0	0	184
合 計	48	214	268	346	450	552	538	371	155	94	160	146	73	3415

※¹ 市内医療機関報告数：市内医療機関から報告を受けた新型コロナウイルス感染症患者の総数

【発生届対象の患者(4 類型)及び対象外の患者】（市内医療機関を受診した名古屋市外の患者も含む）

※² 陽性者登録センター登録数：医療機関を受診せず、自己検査等にて陽性になった患者の総数

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症 の分類	疾患	発生数	発生の概要
2023 年 第 5 週	5 類	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	男性、82 歳、家族性 CJD
2023 年 第 5 週	5 類	急性脳炎	1	女性、1 歳、病原体不明
2023 年 第 5 週	5 類	梅毒	1	男性、38 歳、早期顕症梅毒 1 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔2023 年 1 類～5 類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1 類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2 類感染症	急性灰白髄炎	0

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

2 類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	37（10）
2 類感染症	ジフテリア	0
2 類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。） ※令和3年2月13日から	64677
3 類感染症	コレラ	0
3 類感染症	細菌性赤痢	0
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0
3 類感染症	腸チフス	0
3 類感染症	パラチフス	0
4 類感染症	レジオネラ症	2
5 類感染症	ウイルス性肝炎	2
5 類感染症	アメーバ赤痢	2
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5
5 類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、バネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	3
5 類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3
5 類感染症	後天性免疫不全症候群	8（6）
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	4
5 類感染症	梅毒	41（10）

累計は 2023 年第 1 週からの診断週による累計、（ ）内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[]内は疑似症累計数を再掲、
【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。対象疾患が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。
（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔愛知県麻疹・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻疹・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻疹・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>）をご覧ください。

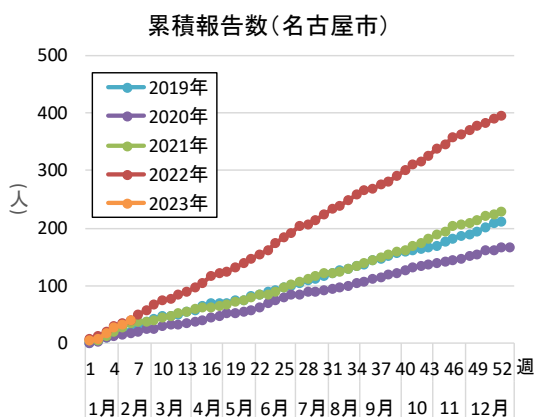
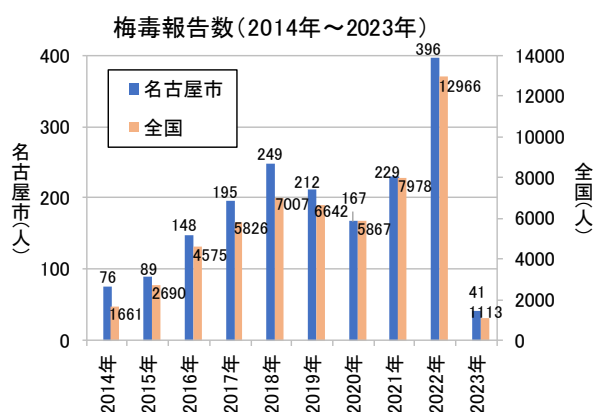
〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

すべてインフルエンザ A 型でした	定点医療機関（千種区）
インフルエンザはすべて A 型	定点医療機関（西区）
感染性胃腸炎はすべてノロウイルス感染症	定点医療機関（西区）
インフルエンザ A 型です	定点医療機関（中村区）
インフルエンザ A 2 人のみ	定点医療機関（瑞穂区）
インフル A 型	定点医療機関（緑区）
全員インフル A 型	定点医療機関（天白区）

〔名古屋市の梅毒報告数〕

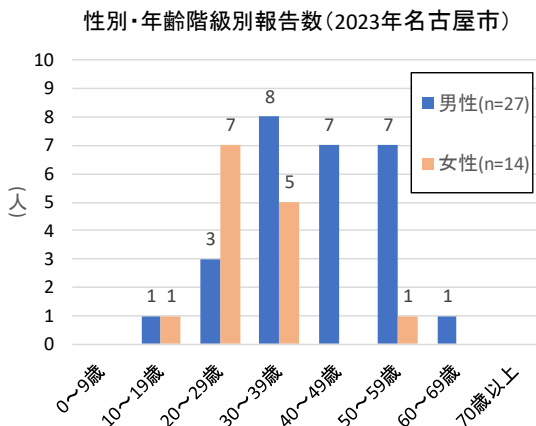
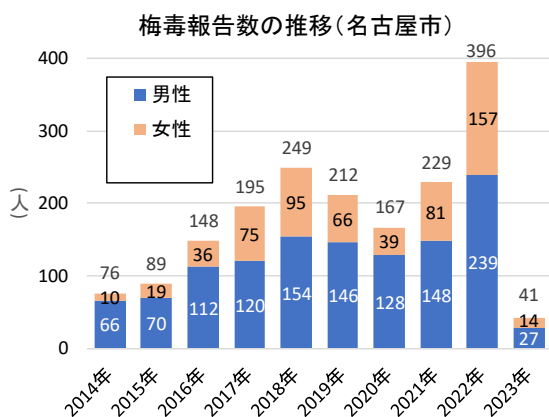
- 近年、梅毒の患者報告数が全国的に増加しており、本市においても2022年（令和4年）の報告数は現在の調査方法となった1999年以降で最多となりました。患者は、男性では20～50歳代で多く、女性では20歳代で特に報告数が増加しています。
- 梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体による感染症で、感染経路は感染部位と粘膜や皮膚との直接接触（性的接触）です。
- 梅毒の症状は、時間の経過とともに局所から全身に広がっていきます。症状が一時的に消失しても治療を行わないと病気は進行します。また、感染しても症状が現れない場合や治っても再度感染することがあります。
- 妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児も感染し、死産や早産、先天梅毒を起こす可能性があります。
- 梅毒の治療には抗生物質が用いられます。



梅毒報告数の推移

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
名古屋市	76	89	148	195	249	212	167	229	396※3	41※1
全国	1661	2690	4575	5826	7007	6642	5867	7978	12966※3	1113※2

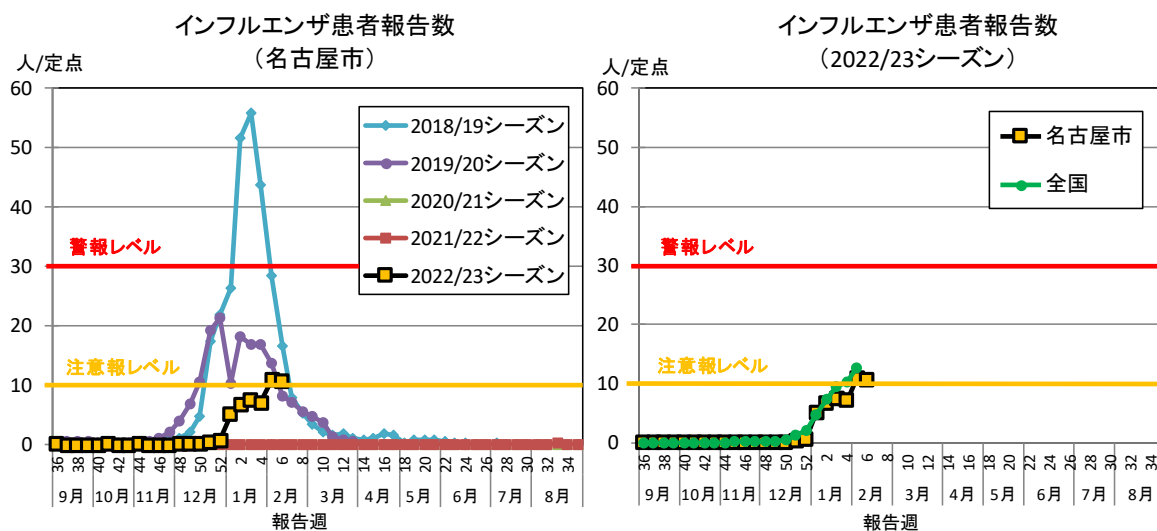
※1 第6週(2月12日)まで ※2 第5週(2月5日)まで ※3 報告数は速報値



〔トピックス：インフルエンザ〕

- 本市における第6週（2月6日～2月12日）の市内70定点からのインフルエンザ患者報告数は750人、定点当たり患者報告数は10.71人で前週より減少しました。国立感染症研究所が定める注意報の指標である「10」を上回っています。
- 愛知県では1月19日にインフルエンザ注意報が発令されています。
- インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染と病原体に汚染された物等を介した接触感染があります。
- 感染後、1日から3日程度の潜伏期間を経て、発熱（38℃以上）、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等が出現し、のどの痛み、鼻水、咳等の症状も見られます。1週間前後の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状であり、いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。高齢者や乳幼児などは重症化することがあるので、特に注意が必要です。

〔名古屋市のインフルエンザ患者報告数：2023年2月15日作成〕



定点当たり患者報告数(2022/23シーズン：8週分)

	第51週 (12/19～ 12/25)	第52週 (12/26～ 1/1)	第1週 (1/2～ 1/8)	第2週 (1/9～ 1/15)	第3週 (1/16～ 1/22)	第4週 (1/23～ 1/29)	第5週 (1/30～ 2/5)	第6週 (2/6～ 2/12)
名古屋市	0.33	0.71	5.06	6.76	7.61	7.10	10.86	10.71
愛知県	0.33	0.80	4.65	7.01	7.96	7.48	10.05	—
全国	1.24	2.05	4.73	7.37	9.59	10.36	12.66	—
名古屋市 (昨シーズン)	0.00	0.03	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.03

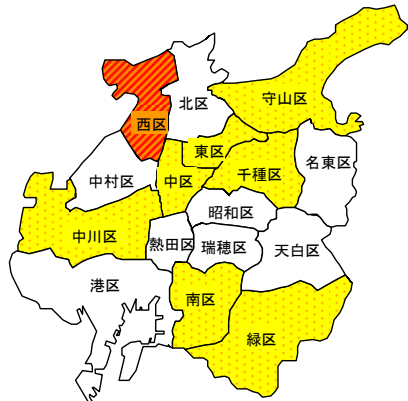
※「1」を超えると流行入り、「10」を超えると注意報、「30」を超えると警報の基準

※報告数は各週公表時における速報値

各区の患者報告数(第6週)

	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	合計
市内70定点からの患者報告数(人)	61	80	18	123	41	58	25	15	13	41	21	90	73	43	32	16	750
定点当たり患者報告数(人)	12.2	20.0	3.6	30.8	8.2	14.5	5.0	3.0	3.3	10.3	5.3	22.5	14.6	10.8	8.0	4.0	10.71

インフルエンザ



2023年第6週

注意報警報レベルについて

患者報告状況 (定点当たり患者報告数)	色
平常レベル	
注意報レベル	
警報レベル	

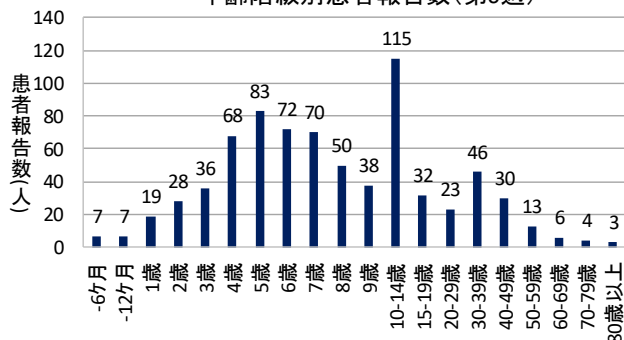
注意報・警報レベルの基準値(定点当たり患者報告数)

注意報レベル	警報レベル	
基準値	開始基準値	終息基準値
10	30	10

注意報レベル: 定点当たりの患者報告数が10以上30未満の場合
警報レベル: 定点当たりの患者報告数が30以上となり、その後、10未満となるまで

年齢階級別患者報告数

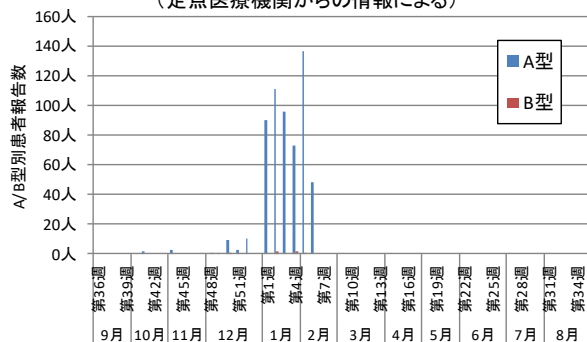
定点からのインフルエンザの 年齢階級別患者報告数(第6週)



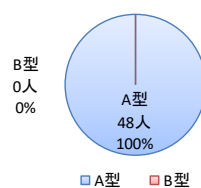
インフルエンザA/B型別流行状況

インフルエンザウイルス迅速診断キットによるインフルエンザA/B型別の検査結果が定点医療機関から報告されています。本市におけるインフルエンザA/B型別の患者情報を集計したところ、2022/23シーズンは、インフルエンザA型583人、インフルエンザB型7人がこれまでに報告されています。インフルエンザウイルスのうちAH3亜型が全国的に多く検出されています。

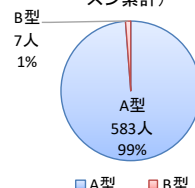
インフルエンザA/B型別患者報告数(2022/23シーズン) (定点医療機関からの情報による)



インフルエンザA/B型別患者 報告数の割合(第6週)



インフルエンザA/B型別患者 報告数の割合(2022/23シーズン累計)



◆2023 年第 6 週 患者報告数（疾病区別）、定点あたり患者報告数（疾病区別）、年齢階層別患者報告数（疾病別）

患者報告数（名古屋市）

2023年第6週（2023年2月6日～2月12日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比*
★ インフルエンザ	61	80	18	123	41	58	25	15	13	41	21	90	73	43	32	16	750	1.0	3.9
○ RSウイルス感染症	2									18	1						21	5.3	4.8
○ 咽頭結膜熱	1		1	4								2			2		10	1.1	0.6
○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1			6											1	4	12	0.9	0.2
○ 感染性胃腸炎	25	2	28	47	8	23	1			2	5	10	22	19	24	11	227	0.7	1.2
○ 水痘									2				1	1			4		0.7
○ 手足口病																	0		0.0
○ 伝染性紅斑				1													1		0.1
○ 突発性発疹			1	2									1			1	5	0.8	0.6
○ ヘルパンギーナ																	0		
○ 流行性耳下腺炎																1	1	0.5	1.0
△ 急性出血性結膜炎																	0		
△ 流行性角結膜炎																	0		0.0
◇ 細菌性髄膜炎																	0		
◇ 無菌性髄膜炎																	0		
◇ マイコプラズマ肺炎																	0		0.0
◇ クラミジア肺炎																	0		
◇ 感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	0		
計	90	82	48	183	49	81	26	15	15	61	27	102	97	63	59	33	1031		
★ インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○ 小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△ 眼科定点数	1		1	1	1			1	1	1		1		1	1	1	11		
◇ 基幹定点数			1				1			1							3		

※○△◇は定点種別を示す。

セルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

*過去3年の同週の平均値との比

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況（名古屋市）

2023年第6週（2023年2月6日～2月12日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
インフルエンザ	12.2	20.0	3.6	30.8	8.2	14.5	5.0	3.0	3.3	10.3	5.3	22.5	14.6	10.8	8.0	4.0	10.7
RSウイルス感染症	0.4										4.5	0.3					0.3
咽頭結膜熱	0.2		0.2	1.0									0.5		0.5		0.1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.2			1.5											0.3	1.0	0.2
感染性胃腸炎	5.0	0.5	5.6	11.8	1.6	5.8	0.2				0.5	1.3	2.5	4.4	4.8	6.0	3.2
水痘									0.5						0.2	0.3	0.1
手足口病																	
伝染性紅斑				0.3													0.0
突発性発疹			0.2	0.5												0.3	0.1
ヘルパンギーナ																	
流行性耳下腺炎																0.3	0.0
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎																	

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

流行警報・注意報について

■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値（左表）に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

年齢階層別患者報告数(名古屋市)

2023年第6週(2023年2月6日～2月12日)

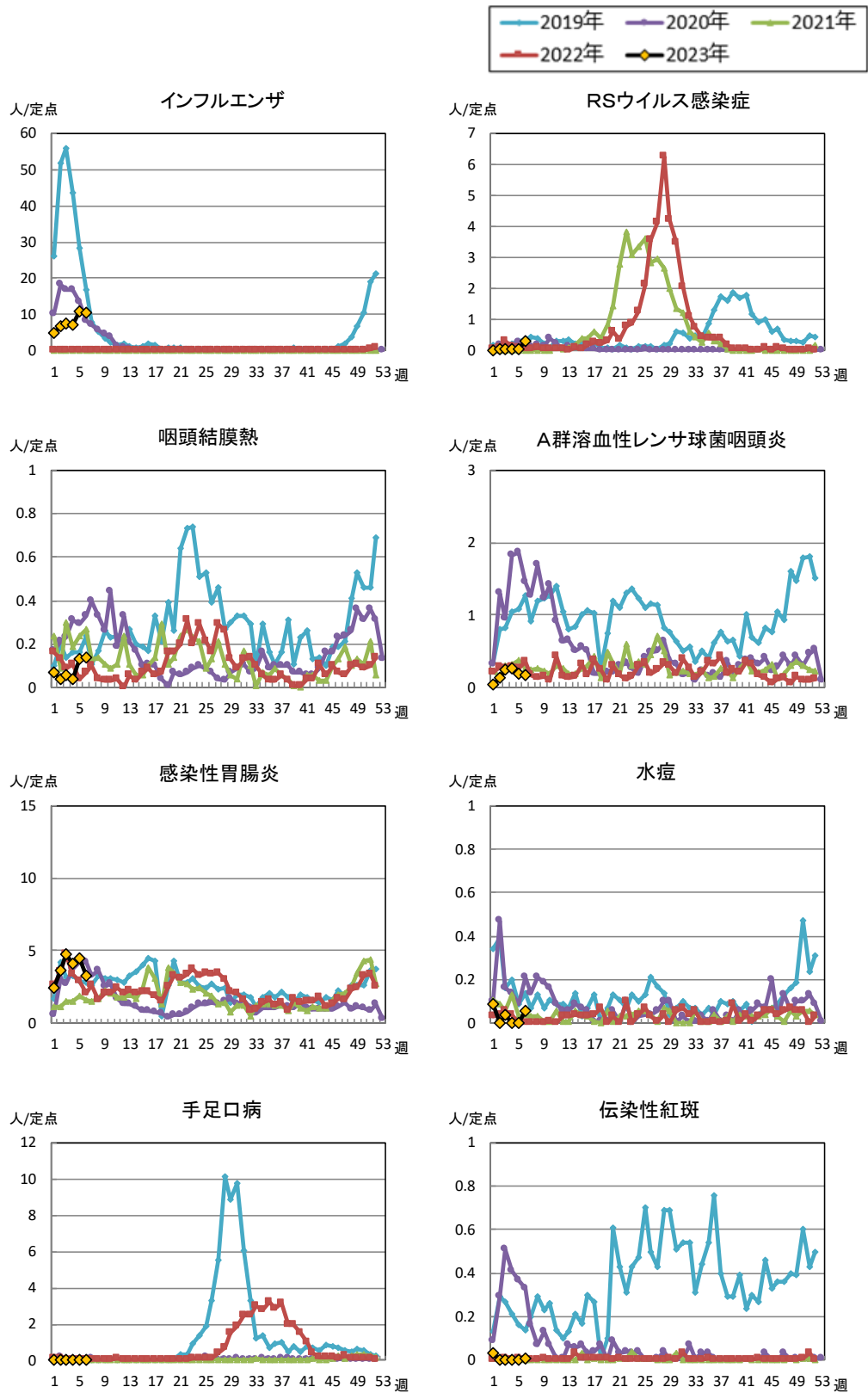
疾患 \ 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ	7	7	19	28	36	68	83	72	70	50	38	115	32	23	46	30	13	6	4	3

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上
RSウイルス感染症	1	1	4	3	2	3	3	2	2					
咽頭結膜熱		1	1	2	2	1	1	1		1				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	1		1	3	1	1	1	1				2
感染性胃腸炎	3	10	29	32	26	29	27	14	6	9	4	13	1	24
水痘			1					2				1		
手足口病														
伝染性紅斑								1						
突発性発しん		2	2	1										
ヘルパンギーナ														
流行性耳下腺炎							1							

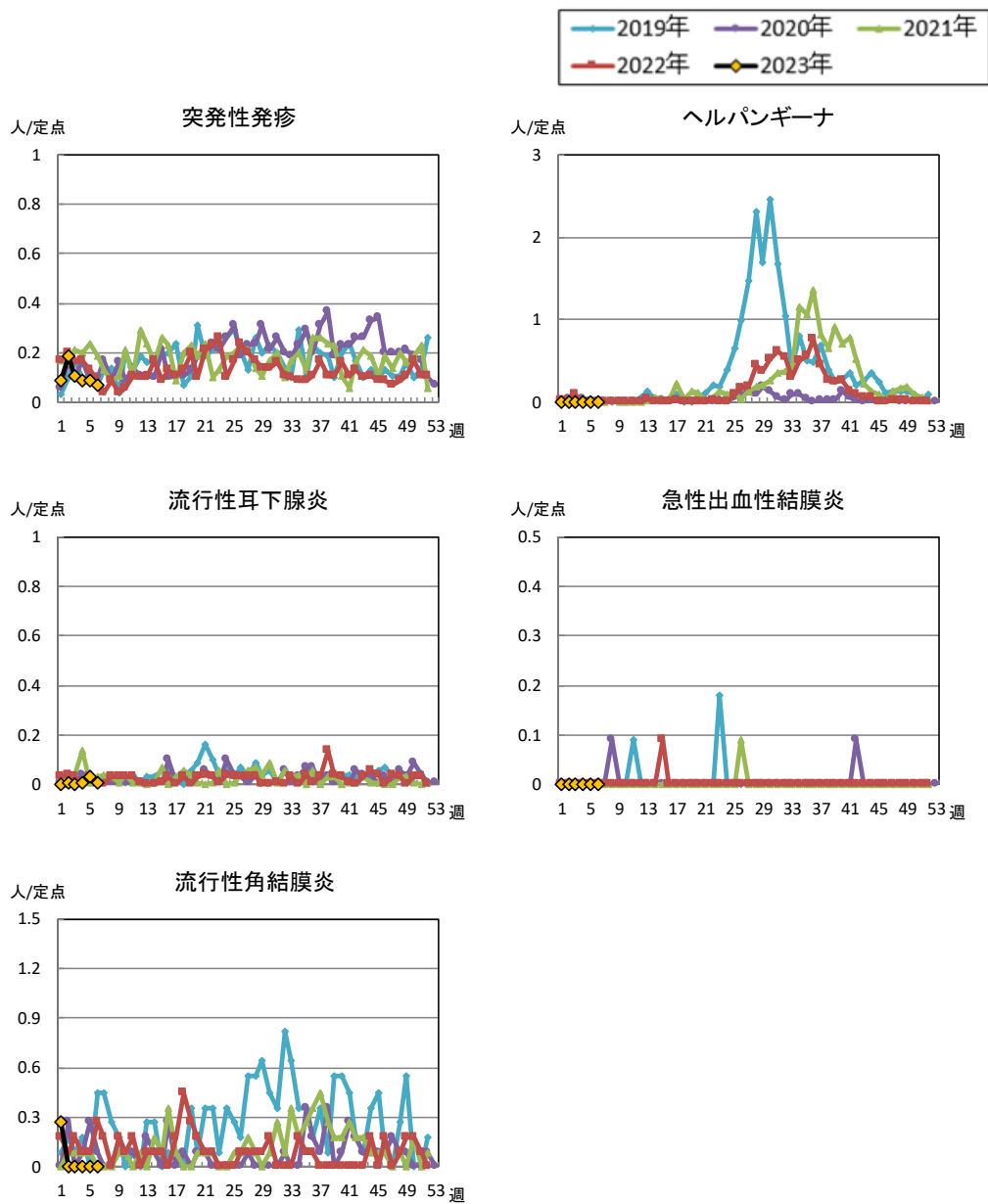
疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
急性出血性結膜炎																			
流行性角結膜炎																			

疾患 / 年齢階層	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上
細菌性髄膜炎																
無菌性髄膜炎																
マイコプラズマ肺炎																
クラミジア肺炎																
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2023年第6週まで



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2023年第6週まで



◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2023 年 1 月分〕

基幹定点数：3（西部医療センター(北)、名古屋第二赤十字病院(昭和)、名古屋掖済会病院(中川)）

表1.基幹定点報告、区別患者報告数(名古屋市)

2023年1月

疾患 / 区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症				0
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	0	0	0	0

表2.基幹定点報告、年齢階級別報告数(名古屋市)

2023年1月

疾患 / 年齢階級	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90歳-	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症											0
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症											0
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◆ 性感染症について〔性感染症定点把握、2023 年 1 月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

報告された患者数を性別でみると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症および尖圭コンジローマの順に多く、女性では性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマの順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性 185 人、女性は 47 人でした。（表 2、図 1 参照）

2023 年 1 月分を年齢階級別に見ると、男性の性器クラミジア感染症は 15 歳以上の全ての年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は 20 歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは 20 歳以上の全ての年齢階級で報告があり、淋菌感染症は 15 歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は 15 歳から 34 歳および 50 歳から 54 歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は 20 歳から 29 歳、35 歳から 39 歳、45 歳から 49 歳および 55 歳以上の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは 25 歳から 29 歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は 15 歳から 29 歳の年齢階級で報告がありました（表 2、図 2 参照）。

表1. 性感染症区別患者報告数(名古屋市)

2023年1月

疾患 / 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	6		24	1	3	43	20			20	2	1		7		2	129
性器ヘルペスウイルス感染症			5	2	2	10	3	3		1	1			1		2	30
尖圭コンジローマ			8		1	4	1			5		1					20
淋菌感染症	2		9		1	15	12			11				2		1	53
計	8		46	3	7	72	36	3		37	3	2		10		5	232

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1	1	1		1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2. 性感染症年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2023年1月

疾患 / 年齢階級	性別	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳-	計
性器クラミジア感染症	男性		1	23	33	10	9	8	11	3	1	99
	女性		3	16	9	1				1		30
性器ヘルペスウイルス感染症	男性			1	1	4	1	5	1	2	4	19
	女性			4	4		1		1		1	11
尖圭コンジローマ	男性			3	5	2	2	2	1	1	3	19
	女性				1							1
淋菌感染症	男性		1	10	9	10	4	4	6	3	1	48
	女性		1	2	2							5
計	男性		2	37	48	26	16	19	19	9	9	185
	女性		4	22	16	1	1		1	1	1	47

図1. STD各感染症が総報告数に占める割合(2023年1月)

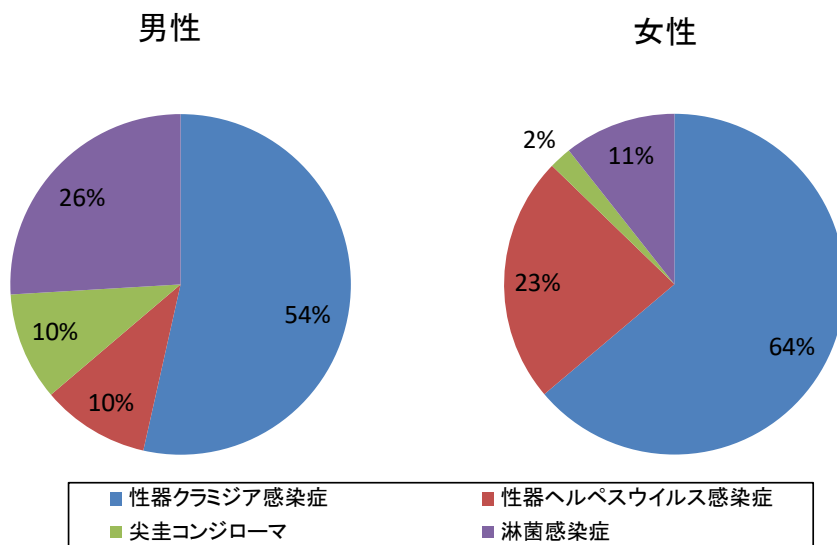


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり報告数(2023年1月)

